

## 令和4年度2学期始業式式辞

### 令和4年度 2学期始業式

令和4年8月25日(木)  
安芸太田町立加計小学校

皆さんおはようございます。今日から2学期が始まりました。どんな夏休みでしたか。夏休み中に、自分でチャレンジしてみようと思ったことをがんばってくださいとお話ししましたね。皆さんがどんなことを突き抜けようと思ったのか、聞かせてもらうのを楽しみにしています。さて、今日は、中止になってしまった8月5日の登校日に皆さんにお話ししたいと思っていたことを話します。

気づいて考えて  
やってみる!

自分を大切に  
人を大切に 力を合わせて

加計小学校の目標はこれですね。「気づいて考えてやってみる!」今日はそのためのものさしになっている「自分を大切に 人を大切に 力を合わせて」について私の思いをお話します。

【写真を提示】この写真は、今年の2月に始まったウクライナとロシアの争いを報じた写真です。この爆発の下でどんなことが起こっているのか、皆さんもニュースなどでよく

知っているでしょう。

【広島きのご雲の写真を提示】この写真は、1945年8月6日8時15分 広島市に原子爆弾が落とされた時の写真です。このころ、日本はアメリカをはじめ外国と戦争をしていました。大きなキノコのような雲がわかりますか。この爆発の下でどんなことが起こったのか2年生以上の人は知っていますね。

【原爆ドームの写真を提示】原子爆弾が落とされた後の写真です。これは原爆ドームと呼ばれている建物。たった1つの爆弾で、広島は壊れさせてしまいました。建物も、人の命も、です。原子爆弾によって亡くなった人はこの年の12月までにおよそ14万人。戦争が終わった後も、この原子爆弾の後遺症によって、多くの人がなくなりました。その数20万人だそうです。



原子爆弾は、広島と長崎に落とされました。8月6日に広島市に。8月9日に長崎市に。当時アメリカは「広島・小倉・長崎のうち2か所に原子爆弾を落とす計画だった」そうです。小倉は福岡県北九州市にあります。実は校長先生のお母さん、私の母は小さいころ小倉に住んでいました。戦争当時5歳でした。私が小さいころ、母から聞いたことがあります。



小倉には、そのころ、八幡製鉄所という鉄を作る大きな工場がありました。軍隊の基地もあったそうです。6日に広島に原子爆弾が落とされたというニュースを聞いた時、次は小倉ではないかと心配した人もいました。8月9日の朝、私の母は家の庭にある池が真っ黒になってびっくりしたそうです。空を見上げると黒い煙で空が覆われていました。それは八幡製鉄所のたくさんの煙突から黒い煙をモクモクと出し、空に幕をはったためでした。実はその時、もう一つの原子爆弾を積んだアメリカの飛行機が

小倉に来ていたようです。爆弾を落とそうと試みましたが、もやと煙でどこに落とせばいいか決められなかったため、計画を変更。もう一つの目標都市であった長崎市に向かったと言われています。8月9日11時2分。2つ目の原子爆弾が長崎市に落とされました。広島と同じようにたくさんの命がなくなりました。

もし、小倉に原子爆弾が落とされていたら、恐らく私の母は亡くなるか、大けがをしてしまったことでしょう。人生が大きく変わったに違いありません。私の父と出会うことはなく、私は生まれなかったと思います。逆に、長崎に原子爆弾が落とされたことで、亡くなった人も、もし小倉に爆弾が落とされていたら、死ななくてすみました。その人の人生は続き、命が続いていったことでしょう。

戦争によって 命がうばわれた人 うばわれなかった人  
 戦争によって 人生の続きがなくなってしまった人 人生が大きく変わってしまった人  
 今、私がここに生きていることは 77年前のできごとと 実は大きく関係があるのです。

今、加計小にいる子どもたちは103人 先生方は21人  
 毎日、当たり前のように学校に通い、遊び、学ぶことができます。  
 でも、それは決して「当たり前」ではなく「有り難い(ありがたい)」こと  
 そのことに感謝して「自分も」「人も」大切に、過ごさなければ、人生を続けることができなかつた多くの命に申し訳ないと私は思っています。

戦争によって命が奪われた人。奪われなかった人がいます。戦争によって人生の続きがなくなってしまった人 人生が大きく変わってしまった人がいます。遠い昔、77年前の戦争ですが、今、私がここに生きていることと77年前の出来事とは大きく関係があるのです。皆さんも同じです。広島に生きている皆さんのおじいさんおばあさん、ひいおじいさんひいおばあさんが、戦争を超えて命をつなぐことができたから、皆さんはここにいるのです。

加計小にいる子どもたちは103人 先生方は21人。毎日、当たり前のように学校に通い、遊び、学ぶことができます。でも、それは決して「当たり前」ではなく「有り難い(ありがたい)」こと。そのことに感謝して「自分も」「人も」大切に、過ごさなければ、人生を続けることができなかつた多くの命に申し訳ないと私は思っています。



わたしたちができることは何でしょうか。  
 小学生のみなさんにはできないのでしょうか。

ウクライナの紛争でもおなじことが言えます。この戦火のもので、これまでの数か月で命を落としたり、家や家族をなくしたりした人がたくさんいるのですから。77年前の日本と同じことが今、この時間にも起こっていることをどう考えればいいのでしょうか。

私たちにできることはなにでしょうか。

小学生のみなさんにはできないのでしょうか。

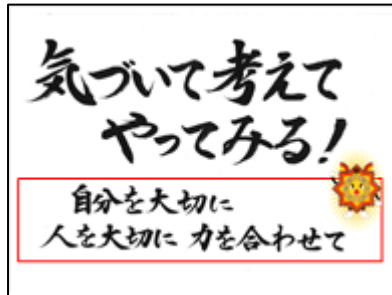
今日、明日のうちに、それぞれの学級で8月5日にできなかつた「平和学習」が予定されています。

ぜひこのことについて、自分たちで考えてみてください。そして、皆さんなりの答えを校長先生にも教えてください。



平和な社会をつくるために、私が必要だと思うことは「人としてかしこくなる」ことです。

- 身の回りのことに「おかしいな どうしてだろう」と気づくこと
- 正しいかどうかを見抜くこと
- どうしたらいいかを考えること
- 自分も人も命を大切にできること
- 解決のために、力を合わせること



加計小学校の目標はそのことにつながっています。2学期の皆さん一人一人のがんばりに期待しています。

令和4年8月25日 加計小学校長 萩原英子